



「よろん」か「せろん」か

喜多 千草

「世論」には二通りの読み方がある。「よろん」と「せろん」だ。もともと「よろん」のほうは「輿論」と表記されていたが、戦後間もなく当用漢字表が公布されてから、「輿」の字の書き換えとして「世」が使われるようになったという。ところがNHKの標準発音を示した『新用字用語辞典』では、実は「世論」の読みとしては「よろん」のみが記載されている。また、ウォルター・リップマンの名著『世論』も岩波文庫では「よろん」とふりがなが振られている。後からついた読み方にもかかわらず、「世論」の読みとして「よろん」が好まれる理由のひとつには、「せろん」のほうには世間の風評といったややマイナスの意味も含むことがあるためだろう。「世論に惑わされる」などの表現では「せろん」と読む。

この伝でゆけば、インターネットには無責任な

うわさ話やデマ、誹謗・中傷があふれているというイメージは、「インターネットでは『せろん』が横行しているだけだ」ということになるだろう。しかし、こうしたマイナス評価一辺倒でもない。

7月はじめに電通の消費者研究所がおこなった、今年上半年の話題・注目商品のアンケートで1位になったのは「ブログ」。ブログというのは、設置・更新・相互コメントが簡単に行えるウェブページである。よく「日記用」と言われるが、用途は限られない。ただし『枕草子』や『徒然草』以来の長い伝統に基づくためか(?)、日本では、身辺雑事から時事論評までを日記風にしたためて更新してゆく人が多いのは事実だ。一方、アメリカなどでは同じツールが、政治討論や技術評論、マスコミ批評などに積極的に使われており、大統領選挙でも一定の役割を担ったとして注目された。こうした動きを評して、かつてユルゲン・ハーバマスが『公共性の構造転換』で展開した、近世ヨーロッパの市民的世論形成の場としての「公共圏」という概念をなぞら

えて「ブログ圏」という表現も出てきている。さしずめ「インターネットでこそ『よろん』が形成される」といったところか。

ブログの力に注目するゼミ生が確認したところ、9月に行われた総選挙では、日本でもブログをまとめる結節点となるサイトによって、選挙に関する書き込みの動向が集約され、さまざまな統計情報が呈示されていた。ブログは相互リンクができるというが、ただその機能があるだけではぐんネットワークが広がるというほどでもない。やはりそういう結節点となるサイトがあると断然ネットワーク力が増す。こうなってくると「ブログ圏」という表現にも実感がわいてくる。

このように、インターネットという場では「せろん」も「よろん」も形成されているようだ。その意味で、まさに「インターネットは世論形成の場」というのはなかなか言い得て妙な文字表記ということになる。さて、どう読んだらいいのかな。

(総合情報学部助教授)

HEADLINE

- 8 面 特集 伝統派も健在なり
- 6 面 学部入学生の学費について
- 4 面 特集 社会とともに学ぶ
- 2 面 海外5大学とあらたに協定締結

(中井 暉久)

「教育とは、学校で習ったことをすべて忘れて後に残っているところのことである。これはアイヌシユタインのことである。学生は大学で多くの知識を学ぶが、これらは長い年月の間にほとんど忘れて去られてしまう。しかし一度脳に入った情報は、完全に無に帰してしまっても、意識されない脳の基盤に深く蓄積され、相互に結びついて「人生の智慧」となる。すべてが忘れ去られた後、なお残っているこの智慧こそ、教育の真の成果である。人間は智慧の力でもって、思考を飛躍させ新しいものを創造していく。智慧を豊かにすることは、人間本性からの欲求であり、本来深い喜びを伴うものである。学校教育も知識の詰め込みではなく、豊かな智慧の創造という原点に立ち返って考え直してみることがある。さらに智慧を身につけるという作業は、学校教育に限られたものではない。社会に出てからも、あらゆる機会をとらえて自己鍛錬することが、智慧を広め深めることに繋がる。その意味でわれわれの人生は「まごころ」「一生勉強」なのである。

千草 喜多



学校インターンシップが

文科省特色G.P.に採択

平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に本学が採択された。

文科省は、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。



学校インターンシップに参加し、授業指導の補助を行う学生

本学は、平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に採択された。これは、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。

「英語指導力開発ワークショップ」事業

(文部科学省)に採択

本事業は、文部科学省が公募した競争的プロジェクトの一つである。将来指導的な立場を担うことが期待される中・高の英語教育者に対する、授業研究・教材開発、教室英語などのワークショップを通して、その教師力の向上を図り、さらに研修を行うことで、参加者のネットワークを高めることを主な目的としている。今回、十四大学のプロジェクトに採択された。西日本では、本学の大学院外国語教育学研究科が唯一の採択となった。

第1フェイズの講義を熱心に聴く参加者



本事業は、文部科学省が公募した競争的プロジェクトの一つである。将来指導的な立場を担うことが期待される中・高の英語教育者に対する、授業研究・教材開発、教室英語などのワークショップを通して、その教師力の向上を図り、さらに研修を行うことで、参加者のネットワークを高めることを主な目的としている。今回、十四大学のプロジェクトに採択された。西日本では、本学の大学院外国語教育学研究科が唯一の採択となった。

本事業は、文部科学省が公募した競争的プロジェクトの一つである。将来指導的な立場を担うことが期待される中・高の英語教育者に対する、授業研究・教材開発、教室英語などのワークショップを通して、その教師力の向上を図り、さらに研修を行うことで、参加者のネットワークを高めることを主な目的としている。今回、十四大学のプロジェクトに採択された。西日本では、本学の大学院外国語教育学研究科が唯一の採択となった。

「教員養成G.P.」にも採択

大学院外国語教育学研究科のプロジェクト「学びのネットワーク」と英語教員養成 現職教員・大学院生、地域の学校を巻き込んだ連携型教員養成プログラム(教員養成G.P.)に採択された。

本学は、平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に採択された。これは、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。

本学は、平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に採択された。これは、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。

本学は、平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に採択された。これは、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。

本学は、平成十七年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G.P.)に採択された。これは、国際的視野と実践力を備えた人材の育成を目的として、大学に特色ある教育プログラムを推進することを奨励している。本学は、この取組を推進し、国際的視野と実践力を備えた人材の育成に努めている。

「英語指導力開発ワークショップ」採択に続く快挙

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。

教育研究科からのプロジェクトが採択された。英語指導力開発ワークショップ「英語指導力開発ワークショップ」に引き続き、このように競争的資金を獲得できた。



工学部 第6実験棟が竣工

工学部第6実験棟の竣工式が、九月十三日に挙行政された。森本靖一郎理事長、市環境工学科実験・実習場、男子更衣室、四階には二十二の個人研究室が配置された。

工学部第6実験棟の竣工式が、九月十三日に挙行政された。森本靖一郎理事長、市環境工学科実験・実習場、男子更衣室、四階には二十二の個人研究室が配置された。

総合情報学部

春学期卒業式 秋学期入学式を挙

総合情報学部は九月十七日一時から高槻キャンパスで春学期卒業式を、また十月十三日から秋学期入学式を挙行政した。

飛鳥文化研究所

電気保安功労者 経済産業大臣表彰を受賞

飛鳥文化研究所は、電気保安功労者として、経済産業大臣表彰を受賞した。

「100周年」から

120周年へ

本学は、創立百周年記念事業のウェブサイトのトップにも出てくるように、一九八六(昭和六十一年)に本学は、歴史を大きく節目となる「創立百周年」を迎え、大阪城ホールで盛大な記念式典を行った。

創立百周年記念事業

本学は、創立百周年記念事業のウェブサイトのトップにも出てくるように、一九八六(昭和六十一年)に本学は、歴史を大きく節目となる「創立百周年」を迎え、大阪城ホールで盛大な記念式典を行った。

社会とともに学ぶ

未 熟さ知って向上心芽生える

●●● 博物館なんでも相談会

私はこの夏休業中の8月5日と6日に開催された「博物館なんでも相談会」(相談件数27件、来館者数82人)の補助員として、千里山キャンパス周辺の吹田市などから相談に来た人と接する機会があった。もちろん私たちがそれぞれの資料について判断するものでなく、先生の「補助」として相談内容とその回答をもとに調査シートを作成することが主な仕事であった。



しかし、来館者から見れば私たちが大学関係者であるから、いくつかが質問されることがあった。とはいっても、私たちは史学専攻とはいえまだまだ未熟であり、質問されても回答に困ることが多かった。実に情けない。そのほかにも言葉づかいや相談コーナーへの誘導など他人と接する機会が多く、改めて社会人として備えておくべきマナーの無さを痛感した。

相談会は2日間開催されたが2日目ははやっと仕事にも慣れ、少し余裕ができた。そこでもっと資料に触れ、先生に質問し、自分のために時間を使うようにした。せっかくこのような機会があるのに萎縮してはもったいないと感じたからである。

この相談会で資料に接する機会やその資料に関する知識を得ただけでなく、もっと大事なものを得た。それは自分自身の未熟さを発見し、もっと伸びてやろうとする向上心である。ボランティアという一方的に与えるものでなく、互いに与え合い初めて成り立つと思う。そういう考えが広がればボランティア活動は活発になるだろう。

(文学部3年次生 門脇 隆)

楽しく学んで大はしゃぎ

●●● サイエンスセミナー

7月末に工学部主催でサイエンスセミナーという催しが行われた。これは主に小・中・高校生を対象として、参加した児童や生徒たちに本学で行っている多様な研究を楽しみながら体験してもらうことで、最近心配されている子供の理科離れを防ぎ、科学の楽しさを知ってもらうことを目的としている。私はこのセミナーで実験補助員として、参加してくれた生徒たちに実験の説明を行った。

私が取り扱った実験は「次世代太陽電池の試作」というもので、小・中学生の割合が多かったように思う。説明するにあたり、化学の知識がほとんどない参加者たちにどうすれば楽しんでもらえるかを考え、実践するのに苦労した。小学生にはなるべく難しい言葉を使わないよう日常生活で接するものに例えたりしながら説明し、中



学生には簡単な動作原理を交えてある程度理解してもらいながら実験を行った。生徒たちの中には私も困るような鋭い質問をしてくる子供もいて、ひやひやさせられたことが幾度もあった。楽しく学べる環境のもとでは生徒たちののびのびと実験を行って、質問もしやすいようである。笑顔を見せながら実験を行う生徒たちも多く、私も楽しみながら実験を説明できた。

今回私は初めてサイエンスセミナーに参加したが、はしゃぎながら実験を行っていた子供たちを見ると、みんな楽しんでもらうことができたのではないと思う。次の機会にはさらに多くの子供たちに参加してもらい、理科の面白さをもっと知ってほしい。

(工学部4年次生 中村 裕介)

子どもの目線で楽しもう

●●● あかとんぼ



私たち「あかとんぼ」では、週1回、吹田市内の小学校にある学童保育学級を訪問している。そこでは、人形劇や紙芝居、歌やゲームをし、子供たちとおやつと一緒に遊ぶ、運動場で一緒に遊ぶことなど通じ、子供たちとのコミュニケーションをはかっている。その他にも、小学校や保育園、子供会などからの公演依頼も受けており、地域住民と共に活動を行っている。

活動上、最も苦労した点は、ルールを守る事の大切さを伝えることである。子供たちは自分たちのルールを持っている。その個人のルールを集団に持ち込むことで問題が生じ、その都度、子供たちの間に入って集団でのルールに気づかせることに時間を費やした。

最も心がけた点は、子供と同じ視点に立ち、いかに子供と共に楽しめるかである。大学生として、遊びや楽しみを提供する側の意識を持ったまま子供たちと接していると、自然と双方に距離が生まれる。この意識を取り払い、子供たちの輪に入り、仲間として接することで双方の距離は自然と縮まり、楽しい時間を共に過ごせるようになる。

このような活動を通じて得たことは、これらのことがそのまま自分たちにフィードバックできることへの「気づき」である。ルールを守る大切さ、互いの立場に立って考え、共に楽しむこととは子供たちだけでなく、私たちや大人でも大切なことである。子供たちの問題を通して私たちの課題としても意識づけ、日々の学生生活に生かし、そしてこれからの人生に役立てていきたい。

(社会学部3年次生 中隈 雄介)

本学では、学生のボランティア活動を支援するため、今年4月にボランティアセンターがオープンした。また、7月にはボランティア入門をテーマとした講演会に多数の学生が詰めかけるなど、その関心の高さがうかがえる。

今回の特集では、特技や知識をいかし、社会に貢献している6人からそれぞれの活動内容を紹介してもらった。自ら汗を流して、学生生活を有意義なものにしていることに拍手を送りたい。

直に感じる法律の重み

●●● 法律相談所



われわれ関西大学法律相談所は、8月26日から28日、北近畿地方(兵庫県篠山市・養父市、京都府福知山市)において、各市の後援のもと、夏期移動法律相談を行った。

普段、法学習の実践と社会貢献のために天六キャンパスにおいて市民を対象とした無料法律相談を行っているが、この夏期移動法律相談は弁護士や司法書士の少ない、いわゆる司法過疎地域へのリーガルサービスを大きな目的として、毎年夏休業中に行われる。

今回は学生29人、顧問(本学民法・商法教授)9人、OB(主に弁護士)20人の総勢58人が参加した。

校友会の先輩や各自治体の協力を得て行った今回の移動法律相談では、3日間を通じて計50人以上の相談者が会場を訪れた。中には受付開始の1時間以上前から来場する相談者もいて、その真剣さにこちらも応えなければと気持ちを引き締まった。なぜなら法律問題は、時に人の一生をも左右するからだ。

相談内容は相続問題や、サラ金などの債務整理、不法行為など実に多様であったが、顧問・OB弁護士の指導のもと、懇切丁寧な対応で多くの相談者に好評を得た。

法律相談を通して実感するのは法律の重みだ。普段の法律の勉強ならば試験で間違いを犯しても突っついていられる。それは結局自分の問題だからだ。しかし、法律相談の場では間違いは許されない。もし、間違えたアドバイスにしたがって相談者が行動したとすれば、不利益を被るのはその相談者だ。それだけに、責任の重さを感じながら、最良の勉強の場である法律相談に所員一同真剣に臨んでいる。

社会貢献という活動の趣旨を没却しないために、また何より相談者の力になるために、今後一層の努力を重ねていこうと思う。

(法学部3年次生 藤原 達史)

会場全体に幸せな時間を

大道芸サークル ジャグリマ専科

私たち大道芸サークル「ジャグリマ専科」は幼稚園や小学校、老人ホームなどの施設を中心にジャグリングショーの公演を行っている。ジャグリングというお手玉のようなものを想像されることが多いが、私たちはお手玉のほかに中国ゴマや帽子を使った芸、長細い風船を使ったバルーンアートなどさまざまな大道芸を披露している。

ジャグリングショーは幅広い年代の方に受け入れてもらいやすい。その一方で楽しいと思う瞬間は、世代、性別、ショーのコンセプトによって多様である。ショーの依頼者から情報を得て、一人でも多くの観客に喜んでもらえるようなショーを構成していくことに注力している。また公演の最中でも観客の反応によって臨機応変に内容を変更していかなければならず、自分たちの公演内容と観客の反応の両方に意識を集中させなければならぬことが一番苦労する点である。

私たちのモットーはジャグリングを通じて多くの人びとと幸せな時間を共有することである。公演の企画力や状況判断力など得たものは多くあるが、それ以上にこの時間は何物にも代えがたい私たちの大きな財産となっている。公演中に楽しんでいるのは観客だけであると思われがちだが、一番楽しんでるのは実は自分たちだと考えている。見る者、演じる者両者に満足感を与えることのできるジャグリングのこの大きな魅力を、より多くの人に知ってもらいたいと思い、活動を続けている。

(経済学部4年次生 谷村真由子)



ボランティア活動をはじめよう

10月8日千里山キャンパス第3学舎4号館ソシオA大ホールにて、学生センターボランティアセンター事務局の主催でボランティア活動を紹介するイベントが開催された。

参加団体は文化会ユネスコ研究部、Kandaiハビタット、点訳ボランティアサークルSTEPの3団体である。このイベントは、各ボランティアサークルからの「お互いの活動内容を知り、自分たちの活動の幅をさらにひろげたい」という意欲とともに、7月に実施された「はじめてのボランティア」講演会のアンケートで多かった「実際にボランティア活動をしている人の話が聴きたい」という要望に応えたものである。

当日はそれぞれの団体のメンバーのほか、一般学生も含め100人あまりの出席者で活気ある発表会となった。また、これからボランティア活動に参加したい人や、より多面的に活動しようという人のために、10月12日(水曜5限)から5回連続講座として、「ボランティアリーダー講習会(基礎編)」を開講している。ボランティアセンターでは今後もこのような行事を行っていく予定なので、関心のある人はぜひ学生センターのウェブサイト等により情報を確認し、参加してもらいたい。(学生センター)

課外教育プログラムへのいざない

学生センターでは、正課の授業以外にも学びの場を提供することを目的として、年間を通じて多様な課外教育プログラムを実施しており、平成17年度秋学期は下記の内容のプログラムを予定している。大学生生活で役立つものや、友人をつくるチャンスになるものもある。ぜひ参加してほしい。(学生センター)

行事名	開催時期	場所	定員	問い合わせ先
救急救命講習	10月21日(金) 13:30-16:30	新開大会館 北棟ホール	30人	学生生活課
手話講習(初級A・B)	(初級A) 毎週水曜日(10/5-12/14) 3限 13:00-14:30 (初級B) 毎週土曜日(10/8-12/10) 4限 14:40-16:10	第2学舎 1号館 A36教室	各30人	学生生活課
手話講習(中級)	毎週水曜日(10/5-12/14) 4限 14:40-16:10			
トレーニング講習会	10月 14日(金) 20日(木) 25日(火) 11月 11日(金) 15日(火) 24日(木) 12月 1日(木) 9日(金) 各日程とも 15:00-16:30	中央体育館 1F トレーニングルーム	各30人	スポーツ振興課
KUシネマ	11月16日(水) 16:30-18:30 上映作品未定 12月14日(水) 16:30-18:30 上映作品未定	第3学舎 ソシオAV 大ホール	500人	学生生活課

探検部

文化会探検部は、八月二日から九月十四日まで、モンゴル国中央部を北上して流れるオルホン川の水を引くトカソフバルムス川からスフバルムス川までの約八百キロメートルの行程に海外遠征を行う。探検部は、八月二日から九月十四日まで、モンゴル国中央部を北上して流れるオルホン川の水を引くトカソフバルムス川からスフバルムス川までの約八百キロメートルの行程に海外遠征を行う。探検部は、八月二日から九月十四日まで、モンゴル国中央部を北上して流れるオルホン川の水を引くトカソフバルムス川からスフバルムス川までの約八百キロメートルの行程に海外遠征を行う。

アイススケート部

平成十七年度大阪スポート賞の受賞者に、体育会アイススケート部の岡田成成さん(文)が選ばれた。この賞は、大阪府・大阪府教育委員会主催で、大阪府の体育・スポーツの振興に寄与した者または団体に對して贈呈されるものである。岡田さんは八月十四日、女子個人戦で、土田裕子さん(情三)が優勝し、林直子さん(法)が第四位に入賞した。さらに土田さんは、八月七日に神戸総合運動公園で開催された第三十五回全国学生引渡選抜選手権大会で、準優勝に輝いた。

サッカー部

第二十九回総理大臣杯全日本大学サッカー選手権大会(文)が、自由形で優勝し、見事冠を達成した。また八月十一日はトルコ・イズミットで開催された第十三回ユバシヤード競技大会にも、水戸競技部の山田沙知子さん(文四)、藤田紗和さん(社三)とともに日本代表として出場した。さらに、浦部さんは九月十日の第六回国民体育大会・晴れの国おかやま国体・競泳成年女子百メートルでも優勝を果たした。(学生センター)

飛躍

のイメージが強いモンゴルにおいて、人びとが川と湖のように関わって流域を暮らし、そのかを見聞し、航行に出会うモンゴルの人びとと川の上から接触する。今までのイメージにない、実際のモンゴルを見ることになった。

水上競技部

九月四日、大阪府門真市のなみはやドームで行われた第八十一回日本学生選手権大会(水)が、自由形で優勝し、見事冠を達成した。また八月十一日はトルコ・イズミットで開催された第十三回ユバシヤード競技大会にも、水戸競技部の山田沙知子さん(文四)、藤田紗和さん(社三)とともに日本代表として出場した。さらに、浦部さんは九月十日の第六回国民体育大会・晴れの国おかやま国体・競泳成年女子百メートルでも優勝を果たした。(学生センター)

13 大学に一年間の留学

本学学生交換派遣大学のうち十三大学に一年間留学する学生を次のとおり募集している。募集は春と秋の二回実施しており、英語および中国語圏の大学は年一回応募することが可能である。

出願期間

七月七日(木)～十一月七日(月)

選考方法

語学試験(筆記・聴解・口頭) * 英語は口頭のみ
十一月九日(水)
面接試験(日本語または受験語種)十一月十六日(水)

平成18年度 交換派遣留学生の秋募集

関西大学国際交流助成基金
金第一種奨学金(平成十七年度は二十人に支給予定)
給付額は派遣国によって異なる。
申請は交換派遣留学生に決定した後行われ、なお、この秋募集に関する「秋期留学ガイダンス」(国際交流センター) 68-1174 まで、お問い合わせは、国際交流センター事務局(06-6368-1174)まで。

お問い合わせは、国際交流センター事務局(06-6368-1174)まで。
(国際交流センター) 68-1174 まで、お問い合わせは、国際交流センター事務局(06-6368-1174)まで。

秋季人権啓発行事

「白バラ」をテーマに 講演会を開催

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本年度秋季行事は十一月十四日(月)に左記のとおり開催する。平成十九年度から、秋季人権啓発行事は国際人権問題について国際的な視野を得て、開催に努めている。本年度は、今年が日本におけるドイツ年というところで、第二次世界大戦下にミュンヘン大学の学生たちを中心に結成された「白バラ」という抵抗グループが命をかけて反ナチス抵抗運動をいっしょに立ち上げた。この活動が成立して八百年という歴史を、今集と新古今集を



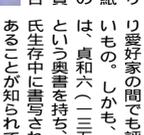
森 古今集と新古今集とは

万葉集とも古語の三た歌集ともいへき作品だが、醍醐天皇の命で古今集ができたのが九〇五年、その後後鳥羽上皇の命で新古今集ができたのが二〇〇五年といふから、今年二〇〇五年は、ちょうど古今集が成立して千百年、新古今集が成立して八百年という、まさに記念すべき年にあ

展示・記念講演

八代集の世界 古今・新古今を中心に

田中 登



日野家八代集のうちの古今集

日野家八代集のうちの古今集は、わすかに巻十六、二十の零本にすぎないが、古筆の世界では、伝足利尊氏筆北山切として、古来より

新刊の扉

名譽教授 植條則夫著 『公共広告の研究』

田原 一著 『ライフワークとしての国』

総合情報学部教授 久保 正成著 『ライフワークとしての国』

平成十七年九月五日、松柏社(定価三千円、税別)

日程	テーマ	講師
11月14日(月)	「江戸時代の『唐話世界』」	文学部助教授 奥村佳代子
11月15日(火)	「上代における漢籍の船載と利用」	奈良大学文学部助教授 東野 治之
11月16日(水)	「東西文明交流の想い」	文学部助教授 森田 文彦

来した日野家八代集がある。書写本は江戸の初期ではあるが、このつちの後集から新古今集に至る八代集の八代集(承保一〇七六)の勅撰集、八代集の写本や古切(古写本の断簡)本の名で知られて、注目を浴びている。

経済・政治研究所 第165回公開講座

日時十月十九日(水)十三時～十四時半
場所千里山キャンパス尚文館 階マルチメディアAV大教室
テーマ「企業における認証」

制度の現状、課題と展望
トピック(から)バイオメトリクスへの転換」
講師 王 耀輝(経済・政治学研究所員・社会学部教授)

関西大学文化・学術活動等奨励金制度がスタート

平成十七年度から、課外活動や自主活動において優れた実績を残した学生、または優れた企画を有する個人または団体を支援し、表彰することを、本学の学生文化の向上に資することを目的としたものである。奨励期間は、企画開始が平成十七年五月十日～六月二十日(締め切り済)となる。

み、業績開始が平成十八年一月八日～三月三十一日となっている。企画部門への応募は二件あり、三件とも採用となった。

公開講座のお知らせ

第45回泊園記念講座
泊園記念、東西学術研究所および大阪府立文化情報センター主催の「第四十

五回泊園記念講座」を開催する。総合テーマは「東西学術」。

会場は、大阪府立文化情報センター(さいかくホール) (大阪府別府北館1階)。

学園祭の日程が決定!

今年も多彩な行事を予定

今年の学園祭の日程が第一部、学園祭は十月一日(火)～四日(金)、第二部、夜祭は十月一日(火)～二日(水)に決定した。第一部は、KANARISE(カンライズ)、第二部は、LATE IN THE NIGHT(ナイト・イン・ザ・ナイト)。

学生諸団体の行事予定 (10/13~11/29)

- アメリカンフットボール部 2005秋季リーグ戦 10/16(日)王子スタジアム 10/30(日)大阪市長居球技場 11/13(日)大阪市長居球技場
- 千里庵(本学) ユネスコ研究部 ユネスコスクール 10/16(日)・11/20(日)
- 千里市民センター 図書室 野球部 2005秋季リーグ戦 10/16(日) 10/19(水) 南港中央球場 10/20(木) 南港中央球場
- 吟詩部 平成17年度学内吟詠発表大会 10/16(日)
- 特別講堂(本学) サッカー部 2005秋季リーグ戦 10/16(日) 長居スタジアム 10/23(日)
- 明石公園陸上競技場 11/13(日)
- 長居第2陸上競技場 11/20(日)
- 加古川陸上競技場 茶道部 秋季茶会 10/16(日) 大阪城豊国神社 学内茶会 11/3(木・祝)
- 野球場部 2005秋季リーグ戦 10/19(水) 南港中央球場 10/20(木) 南港中央球場
- 邦楽部 第46回定期演奏会「邦楽の夕」 10/22(土)
- 吹田メイシアター中ホール ユースホステル部 後期交歓会 10/22(土) - 23(日)
- 大阪国際YH マンドリンクラブ 第45回定期演奏会 11/22(火)
- 吹田メイシアター大ホール 寄附研究部 第43回学外発表会 11/25(金)
- 森ノ宮青少年会館

受賞

山口大学経済学部創立百周年記念賞論文 学生賞 吉田 祥 文芸賞 吉田 武史 文芸賞 藤原兼業と伝える古今集の断簡中山切は、下絵を

照明学会 平成十七年度照明学会論 吉田 祥 文芸賞 藤原兼業と伝える古今集の断簡中山切は、下絵を

工学部専任講師 原直也 (受賞日七月十四日)

共済する、人間的魅力に溢

共済する、人間的魅力に溢れたすばらしい文化に学園祭も学ぶところがあるので、今年も多彩な行事を予定している。今年も多彩な行事を予定している。今年も多彩な行事を予定している。

講演テーマ 「白バラの学生たち 兵士ではなく市民の勇気を」
講師 早稲田大学人間科学部 教授 村上公子 氏
日時・場所 11月14日(月)13時00分～14時30分
千里山キャンパス 尚文館 マルチメディアAV大教室 高槻キャンパス 教室棟T D106教室(映像中継)

この活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

本学は教職員、学生をはじめすべての大学構成員の人権意識を高め、理解を深める助けとなるよう、さまざまな活動を行っている。その活動の一つとして、毎年春季と秋季の二回開催している人権啓発行事がある。

関大通信 第329号

平成17年(2005年)10月13日
大阪府吹田市山手町3 3 35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は11月29日発行の予定です

日本の美しさ、力強さ、素晴らしさを伝えたい

能楽部



能楽部は部員十一人と少ないですが、まさに少数精鋭と言えます。ほとんどの部員が初心者から始め、四年間で謡も舞もできるような、一年次生で

舞と謡を練習し、二年次生ではお囃子の太鼓や笛などをつけた舞囃子に挑戦して、徐々にステップアップしていきます。私も大学では経験がないものに挑戦しようと、全くの初心者で入部しました。

伝統芸能は歴史とともに人を介して代々受け継がれていくものですが、能楽部の練習も先輩から後輩に伝えていく様式をとっています。そのため、上位年次生になるとすいぶん指導力が高くなります。また、年配の方と接することも多いこの世界では、視野がくんと広がり、礼儀作法が身についたように思います。歴史上の人物を表現するにあたって、ゆかりの地に足を運んだり、本を読んで意識的に情感を感じるうちに日本の良さに気付き、心が豊かにもなりました。

邦楽部

私が邦楽部員だと知人に言ったら、ギターやドラムといったバンドを組むならまだしも、なぜいま三味線なのかとよく質問されます。私の場合、母の美事が三味線屋であるもの弾く機会がなく、大学に入ってから邦楽部の存在を知り、本格的に三味線を始めました。それまでは私自身、三味線屋の孫でありながら邦楽をまったく聴いたことすらなく、三味線はお年寄りの楽器という印象がありました。



音楽としての意外性に驚き

三味線を演奏すると、伝統芸能の奥深さを感じるのもちろんのこと、逆に現代音楽に慣れている私には新鮮にも感じられます。例えば、型を重んじる三味線の演奏では自分の個性を出すのも、まずは回、型を覚えなければいけません。歴史を重ねるなかで、しっかりと伝えられている邦楽は、私の感覚からは思いもつかないような概念があり、音楽としての意外性に驚くこともあります。

十一月十一日には今年で三十七回目となる関大能の担い手として、多くの人に能楽を通して、日本の美しさ、力強さ、素晴らしさを伝えていきたいです。
社会学部三年次生 谷本 正満

伝統派も健在だ

題字：書道部 部長 桑 良太

茶道部



茶道——お茶を通じ、心を無にする精神修行

茶道というと、大半の方は女性が行うものというイメージを持っていると思いますが、現在四十五人の部員中十七人が男子部員です。練習は、名建築家村野野良氏が設計した裏千家の今日庵をイメージしてつくられた茶室に、裏千家から先生をお招きして、本格的な道具一式を使って作法やお点前を学んでいます。

立ち位置から座り位置、照明の明るさ、装や化粧にも細かいところまで気を配って一枚の絵になるように、観ても楽しく、聴いても楽しい、そんな感動を観客に伝えられるようになるのが最大の目標です。
社会学部三年次生 神野 学

書道部

書道部の練習は、自由な雰囲気のおかげで上位年次生が下位年次生に教えながら、年二回の書展に自分が納得のいく作品を出展することを目標にしています。自分で言葉を決めて書く「創作」は、作品を見てどんなふうに感じるか、既存の書家の作品をお手本にする「臨書」では、お手本に忠実に書いているかを部員同士で意見交換します。

無心に作品を書き、書家の心を知る

私が書道始めたのは、字を綺麗に書けるようにと近所の書道教室に通ったからです。学年が上がるにつれ、書く字が難しくなるほど書きたいという意欲がわき、いつの間にか一番長く続いた習い事になりました。大学生になつてからは、初めて足を運んだ書展で王鐸という書家の作品の臨書が印象に残っています。それから王鐸の作品を好んで書いています。無心に作品を書くなかで、臨書は、他人の書いた字をただコピーするのはなく、その作品をつくりあげた書家の気持ちや再現することだと感じました。そのため臨書をするときはお手本とする法帖に忠実に書くことで、書家の心を知ろうとしています。



学園祭中の十一月三日には学内茶会という催しで、一般の学生に茶席体験をしてみようという文化のなかにある日本の精神文化にも触れたいと考えています。
経済学部三年次生 桑木野良平

今月の表紙



喜多 千草(きた・ちく) 助教
「情報社会論」制作実習(7シリアル)、「メディア法制と倫理」担当。近著に、「起源のインターネットネットワーク」(青土社)。歴史研究が専門のため既に研究室は資料でいっぱい。数年後が怖い。たまご型のモノを集めている。



編集後記

味覚の秋 スポーツの秋 読書の秋、芸術の秋。そう言われど普段とは違う何か特別なことをする季節のようにも聞かれます。そうであるから、豊かな自然身近に感じられる日本の秋は、五感が研ぎすまされる季節である。季節の味や自然の彩りに接し、繊細な五感をゆくりと呼び覚ます。そして、時代を超えて受け継がれた文化や芸術に目を向ける。秋はわれわれに五感の細やかさを取り戻すきっかけを与えてくれる。
大学には普段の授業の他にさまざまな学びの機会がある。課外教育プログラムや海外語学セミナー、さらに学生諸君自ら地域に貢献し教えることを通じて学ぶ活動など。本号の多岐な記事から、新たな学びのきっかけをつかんでもらえれば幸いです。(堀 雅洋)